

開館 20 周年記念「没後 50 年 文人陶芸家 石黒宗麿展」展示作品について

出品者	出品点数	コレクションの概要
東京国立近代美術館	9 点	文化庁購入作・館独自の購入・寄付
愛知県陶磁美術館	11 点	宗麿の支援者等からの寄付作品
富山県水墨美術館	2 点	富山県が宗麿存命中に購入
宗麿遺族	16 点	宗麿没後、京都八瀬の邸宅に伝存していた作品
射水市新湊博物館	17 点	購入・寄付作品
その他（個人）	19 点	
合計	74 点	

内訳

陶芸 47 点・書画 17 点・スケッチブック 4 点・愛用品 2 点・書画手本帖 4 冊
中国の古陶磁の再現を果たした昭和 10 年代、新機軸に挑戦した 20 年代半ば、
円熟期の 30 年代～43 年まで各時代の代表作を展示

代表的な作品

36 彩瓷鳥文盆（さいじちょうもんぼん） 愛知県陶磁美術館蔵

宗麿の卓越した画才をうかがわせるユニークな逸品。白地のまるい空間に赤褐色（あかかっしょく）の絵具で多くの鳥を素早く描き、生き生きとした絵付けが見どころ。

53 柿釉刷毛目鉢（かきゆうはけめはち） 東京国立近代美術館蔵

刷毛目の筆遣いが力強く、書道作品を見るような趣がある逸品。明るい柿釉（かきゆう）に、灰釉（はいゆう）を含ませた藁（わら）の筆で、勢いのある帯状の文様を描く。

64 鉄絵筒茶碗（てつえつつちやわん） 東京国立近代美術館蔵

最晩年の絵唐津の代表作で、古唐津の倣作（ほうさく）ではなく、宗麿独自の唐津の世界を創り出している。箱書に「石黒唐津と云ふ」と記す自信作。昭和 40 年第 12 回日本伝統工芸展出品作。宗麿存命中に文化庁が購入。単純化したヒメホタルイのリズミカルな絵付けが見どころ。

67 鉄絵荒蕪文平鉢（てつえこうぶもんひらばち） 愛知県陶磁美術館蔵

枯淡（こたん）の趣のある最晩年の絵唐津の代表作。鉄絵で生い茂る荒れ地の雑草を描く。藁（わら）を束ねた筆で素早く一気呵成（かせい）に描いた草文はリズムカル。思いのままに自己を表現した宗麿の作陶の境地を示す作品。第14回日本伝統工芸展出品作。

12 妓女図（ぎじょず） 愛知県陶磁美術館蔵

舞妓（まいこ）を描き、中国清代の小説「聊斎志異（りょうさいしい）」の七言絶句を賛に添えた遊び心にあふれた作品。

